

平成 29 年度和歌山県高等学校バドミントン新人大会

於 田辺スポーツパーク体育館

1部：2年生及び1年生の近畿大会出場者・希望者
2部：1年生

1月11日(木)・12日(金)

【2部男子ダブルス】

谷口 椋星 (1B)・瀧本 奏斗 (1F) **ベスト8**

- 1回戦 対 有田中央高校 2-0 [21-8/21-14/-]
- 2回戦 対 粉河高校 2-0 [21-13/21-9/-]
- 3回戦 対 星林高校 1-2 [14-21/21-19/13-21]

1月12日(金)・13日(土)

【2部男子シングルス】

谷口 椋星 (1B) **ベスト8**

- 1回戦 対 星林高校 対戦選手棄権のため、不戦勝
- 2回戦 対 那賀高校 2-0 [21-16/21-16/-]
- 3回戦 対 向陽高校 2-1 [17-21/21-11/21-18]
- 4回戦 対 向陽高校 0-2 [19-21/18-21/-]



瀧本 (1F) 谷口 (1B)

3日間の新人大会が終わりました。

夏の近畿予選会が終わり、僕たちの目標だった近畿大会への出場権を獲得することができず、2年生は悔しい思いをしました。そこから4ヶ月半、この新人大会を総体予選に向けての通過点として取り組んできました。

この新人大会では、2年生はダブルスベスト8・シングルスベスト16、1年生はダブルス・シングルスともにベスト4入賞を目標としていました。しかし、大会が近づくにつれて、大会目前のチーム作り・雰囲気作りができず、大きな不安を抱えながら、この新人大会の日を迎えました。

2年生はこれまでの大会においても、「自分たちの力を発揮する」ことができずにいました。だからこそ、今回は「自分たちのプレーをする」ことを心がけながら、試合に挑みました。大会前日まで3年生の先輩方やOB・OGさんが僕たちの練習相手になってくれ、今度こそ、その気持ちに答えようと思っていました。しかし、またこれまでの大会と同じように、普段の力を全く発揮することができずに新人大会が終わってしまいました。正直、この状態は今に始まったことではありません。僕たちが1年生の時の冬…昨年の新人大会からです。そう考えると、技術は上達していても、本番で力を発揮できるメンタルが全く成長していないとしか言いようがありません。

2年生がトーナメントを全く勝ち上がれない中、1年生は男子ダブルス1組がベスト8・シングルスもベスト8まで勝ち上がりました。ベスト4がけの試合はどの試合も接戦で、どちらが勝利するか本当に分からない試合展開でした。ただ、「気合い・粘り・根性」は他の高校にも負けておらず、僕たち2年生も見習うべき姿がたくさんあったように思います。ただ、その姿があっても敗退は敗退です。1年生もこの結果を望んでいたわけではないと思います。少なくとももう一つ、トーナメントを勝ち上がることを目指していたはずです。そこで後悔するのが、1年生に対して、もっと早い時期からこの新人大会に向けての意識づけを僕たち2年生がしてあげることができなかったことです。2年生は昨年の新人大会で、大きな後悔をしました。その気持ちを十分分かっていたはずなのに、チーム環境を作ることができなかった僕たちの責任は大きいと思います。今回、新人大会での1年生の戦う姿を見て、「1年生の全員が“力”を持っている」と確信しました。これからはその能力をもっと引き出せるように、しっかり指導していきたいと思います。

2年生にとって残す大会は、総体予選だけです。団体戦は今回ポイントを取ることができなかったため、勝ち上がることも厳しいトーナメントになることが予想されます。でも、ここで諦める訳にはいきません。今までもOB・OGさん、そして先生が僕たちにたくさんのことを教えてくれました。でも、本当に何一つ返すことができていません。総体予選では、今までの恩を返し、何よりも僕たち自身が「やり切った・悔いはない」と言えるよう、日々の練習を大切にして、先生やみんなと約束した「笑顔で終わる」ことを絶対に果たしたいと思います。また、総体予選に向けては今まで以上、たくさんの人の教えや支えをもらうことになるため、その感謝を忘れず、支えてくれている人たちの気持ちを裏切ることのないように、自分自身と向き合っていきたいと思います。

…次は負けません。これからも応援よろしくお願いします。



バドミントン部2年 井谷悠人・吉田伊吹